

# V. 技術者養成

## 1. 技術人材養成事業

### 1-1 技術研修事業

〔目的〕 新製品の開発や生産技術の向上を図るため、企業の技術者や後継者を受け入れて研修する。

研修内容	研修期間	事業所名	担当者
青白磁釉の調合	平成24年4月4日～ 平成25年3月29日 (途中延長3回)	陶磁器製造業	吉田 英樹
釉薬調合	平成24年4月5日～ 平成25年3月29日 (途中延長3回)	個人	吉田 英樹
	平成24年5月11日～ 平成25年3月29日 (途中延長3回)	陶磁器製造業	吉田 英樹
	平成24年6月11日～11月30日 (途中延長1回)	陶磁器製造業	吉田 英樹 河野 将明
	平成24年8月1日～10月31日	陶磁器製造業	吉田 英樹 河野 将明
無鉛和絵具の多色化	平成24年6月4日～ 平成25年3月29日 (途中延長3回)	個人	吉田 英樹 河野 将明
石膏型と鑄込み成形法	平成24年4月2日～6月29日	陶磁器製造業	小林 孝幸
透光性陶土の成形となが さき無鉛上絵具の加飾に ついて	平成24年7月2日～9月28日		河野 将明
加飾技法の修得	平成24年10月1日～12月28日		
フォトショップ、イラスト レーターを用いた画像加 工技術	平成24年4月10日～9月25日 (途中延長1回)	陶磁器卸売業	桐山 有司
石膏型三次元加工機の操 作法	平成24年5月15日～ 平成25年2月14日 (途中延長2回)	長崎県陶磁器石膏型協同 組合 陶磁器生地製造業 (12名)	依田 慎二
PCを利用したデザイン	平成24年5月21日～11月20日 (途中延長1回)	陶磁器製造業	依田 慎二

研修内容	研修期間	事業所名	担当者
原子吸光光度計の操作法	平成24年7月6日	無機材料製造業	木須 一正
機械ロクロ	平成24年8月20日～11月20日	陶磁器製造業	小林 孝幸
深紫外蛍光ガラスの組成、構造、熱物性の測定解析	平成24年11月15日～ 11月16日	大学法人	吉田 英樹
砥粒の計測法	平成25年1月24日	国立高等専門学校機構	山口 英次
赤外分光光度計の操作法	平成24年4月27日	エレクトロニクス製品製造業	高松 宏行 永石 雅基
走査型電子顕微鏡用エネルギー分散型X線分析装置の操作法	平成24年5月22日	一般機械器具製造業	高松 宏行
走査型電子顕微鏡の操作法	平成24年5月22日		
粉末X線回折装置の操作法	平成25年2月19日～3月29日	県大学法人	永石 雅基 河野 将明 高松 宏行
熱分析装置の操作法			

#### 1-2 セミナー事業

〔目的〕 技術情報、デザイン情報の迅速な提供及び技術革新に対応できる意識改革を図るためのセミナー等を実施する。

(1)

テーマ	地場産業とデザインの関係		
期 日	平成24年9月12日		
概 要	地場産業における新しいものづくりの形態とデザインの役割について、全国各地の事例を基に対話形式で講演した。		
講 師	日野 明子氏（スタジオ木瓜）、萩原 修氏		
受講者	42名	担当者	戦略・デザイン科 依田 慎二

(2)

テーマ	企業が勝ち残るための販売戦略とは		
期 日	平成 24 年 9 月 21 日		
概 要	市場で勝ち残るためには何が必要かを現在売れている商品の事例を紹介しながら解説した。また、陶磁器産業の現状について消費者アンケートの結果を紹介しながら、陶磁器を売れるようにするために必要な考え方や販売戦略の立て方などについて講演した。		
講 師	千葉 真弓氏 (ユアブレイン・オフィス 代表)		
受講者	18 名	担当者	陶磁器科 梶原 秀志

(3)

テーマ	中小企業が勝ち残るためのブランド化戦略とは		
期 日	平成 24 年 10 月 12 日		
概 要	地域ブランドとは何か？ブランドを成功させるためにはどんな戦略が必要か？ブランドづくりのアプローチはどのようにしたらよいか？ブランドが生き残るためにはどのようなことが必要か？について事例を紹介しながら講演した。		
講 師	田上 康朗氏 ((有)地方産業経営研究所 代表)		
受講者	21 名	担当者	陶磁器科 梶原 秀志

(4)

テーマ	セラミックス材料応用技術研修		
期 日	平成 24 年 11 月 2 日、11 月 3 日		
概 要	・焼結現象の基礎理論 ・各種の加熱装置を用いた焼結の実習 ・焼結体の評価方法 (実際の機器を使った実習)		
講 師	内山 休男氏 (長崎大学工学部 化学・物質工学コース 教授)		
受講者	13 名	担当者	研究企画課 武内 浩一 環境・機能材料科 山口 典男

(5)

テーマ	売上向上の方法を教えます		
期 日	平成 24 年 11 月 9 日		
概 要	12 年間で 6,000 名の経営者に指導し、売上げを向上させた講師が、会社が持っている強みや経営資源をベースにして売上を向上させるコミュニケーションの作り方やその日からすぐに行動出来る具体的なプランの立て方などについて講演した。		
講 師	脇田 勝利氏 ((株) ドリームマーケティング 代表取締役)		
受講者	19 名	担当者	陶磁器科 梶原 秀志

(6)

テーマ	発想の転換と持続可能な循環型ビジネスの展開		
期 日	平成 24 年 11 月 16 日		
概 要	生ゴミ処理機を従来の売りきりではなく、リースやレンタルという斬新なビジネスモデルで食品工場や外食産業の事業所に設置・展開し、地域内循環を実現していくシステムの事業展開の経過や将来展望について講演した。		
講 師	松尾 康志氏（楽しい株式会社(株)代表取締役）		
受講者	21 名	担当者	環境・機能材料科 阿部 久雄

(7)

テーマ	市場動向セミナー		
期 日	平成 24 年 12 月 11 日		
概 要	企業の新市場開拓を支援するため、最近の海外市場の動向と、今後海外に進出するための方法や注意点などについて講演した。		
講 師	松浦 隆展氏（(独)日本貿易振興機構 国内コーディネーター） 中本 健一氏（(独)日本貿易振興機構 生活文化・サービス産業部生活文化産業企画課）		
受講者	15 名	担当者	陶磁器科 秋月 俊彦

## 1-3 教育訓練(セミナー事業)

〔目的〕 企業における生産活動を支援することを目的として、企業の従業員を対象に、窯業原料、製造技術、品質管理等に関する訓練を実施

テーマ名	講 師	概 要	実 施 日	受講者数 (延べ数)
陶磁器の生産管理と加飾技術について	梶原 秀志 秋月 俊彦 河野 将明	陶磁器の品質管理法、在庫管理法、原価計算法、不良原因の解明法および加飾技術について指導した。	平成 24 年 4 月 1 日～ 12 月 7 日	503
下絵付け訓練	吉田 英樹	兎やブドウなどの伝統的模様について、図案のサイズやレイアウト、面相筆による線描き、ダミ筆を使ったダミ付けについて指導した。	平成 24 年 4 月 1 日 平成 25 年 3 月 31 日	183
CAD/CAM 訓練	依田 慎二	3次元加工機操作の高度な専門的知識と技術の習得	平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 3 月 31 日	32

テーマ名	講師	概要	実施日	受講者数 (延べ数)
グラフィックソフトウェア訓練	桐山 有司	グラフィックソフトウェアの高度な専門的知識と技術の習得	平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 3 月 31 日	33
鉛筆デッサンと下絵付けの基礎技術	梶原 秀志	鉛筆によるガラスコップのデッサン技法と筆による下絵付けの技法を指導した。	平成 24 年 5 月 1 日～ 7 月 31 日	498
陶磁器の成形技術	梶原 秀志 小林 孝幸	圧力鋳込み成形法とローラマシン成形法による食器の作製法について指導した。	平成 24 年 5 月 1 日～ 9 月 30 日	97
セラミックス概論	阿部 久雄	セラミックス・陶磁器の生産における単位操作や製造に用いる装置等について学ぶ。	平成 24 年 7 月 17 日 平成 24 年 7 月 24 日 平成 24 年 9 月 11 日 平成 24 年 10 月 9 日 平成 24 年 11 月 15 日	123
セラミックス化学	山口 典男	セラミックスを理解する上で必要な化学について学ぶ。	平成 24 年 7 月 17 日 平成 24 年 8 月 21 日 平成 24 年 9 月 25 日 平成 24 年 11 月 1 日	83
PC デザイン基礎	桐山 有司	セラミックス・陶磁器の生産や開発に必要となる画像データの作成・加工技術について学ぶ。	平成 24 年 7 月 19 日 平成 24 年 7 月 26 日 平成 24 年 8 月 2 日 平成 24 年 8 月 9 日 平成 24 年 8 月 23 日	5
材料評価・試験技術研修（基礎）	木須 一正	セラミックス・陶磁器の生産や開発に必要となる試験・評価技術について学ぶ。	平成 24 年 7 月 19 日 平成 24 年 8 月 2 日 平成 24 年 9 月 27 日	13
セラミックス原料	武内 浩一	セラミックス原料として使用されている天然の物質（岩石・鉱物）について学ぶ。	平成 24 年 7 月 31 日 平成 24 年 9 月 4 日	47
一般化学	高松 宏行	セラミックス・陶磁器の生産や開発に必要となる一般化学について学ぶ。	平成 24 年 8 月 7 日 平成 24 年 9 月 18 日 平成 24 年 10 月 25 日	68
品質管理	永石 雅基	セラミックス・陶磁器の生産における品質工学について学ぶ。	平成 24 年 8 月 28 日 平成 24 年 10 月 2 日 平成 24 年 11 月 8 日	62

#### 1-4 技術交流会

〔目的〕 企業における新製品開発や普及に向けた取り組みに対し、技術面で支援することを目的に意見交換会等を開催する。

テーマ	蓄光製品検討会議（(有)筒山太一窯、(株)創造科学）		
期 日	平成 24 年 11 月 6 日、平成 24 年 12 月 6 日、平成 25 年 2 月 7 日、平成 25 年 3 月 7 日		
概 要	蓄光製品の開発と普及のため、検討会議で情報交換を行った。		
参加者	延べ 24 名	担当者	陶磁器科 吉田 英樹

#### 1-5 先端技術導入促進事業

〔目的〕 県内企業への先端技術導入を促進し、競争力のあるオンリーワンの新技術・新製品開発を支援することで、技術力向上による県内企業の発展を図る

テーマ	環境とゼオライト		
期 日	平成 24 年 11 月 22 日		
概 要	環境保全・維持などを行う環境産業の中で使用されるゼオライトに必要な機能や用途、また、今後の環境ビジネスとしてゼオライトに求められる機能について、事例をもとにご講演した。また、講演後には、県内企業のゼオライト活用に関する技術相談会を開催した。		
講 師	小倉 賢氏（東京大学生産技術研究所 准教授）		
受講者	25 名	担当者	環境・機能材料科 永石 雅基

## 2. 学生研修(インターンシップ等)受入

(1)

実 習 生	佐世保工業高等専門学校 物質工学科 (1 名)		
期 日	平成 24 年 7 月 30 日～8 月 10 日		
実習内容	「ジオポリマー」について実習		
担 当 者	山口 典男		

(2)

実 習 生	佐世保工業高等専門学校 物質工学科 (1 名)		
期 日	平成 24 年 7 月 30 日～8 月 10 日		
実習内容	光触媒（酸化チタン）を被覆したガラス板をつくり有機分解紫外線を照射したときの能力を測定		
担 当 者	阿部 久雄		

(3)

実習生	波佐見町立波佐見中学校（3名）
期 日	平成24年7月11日～7月13日
実習内容	石膏型鑄込、絵付および施釉など陶磁器製造技術および鉍物の分析技術に係わる実習
担 当 者	久田松 学、桐山 有司、依田 慎二、高松 宏行、小林 孝幸、山口 英次

(4)

実習生	京都市立芸術大学美術学部デザイン科（60名）
期 日	平成24年9月6日 平成24年12月1日
実習内容	やきものの製造工程についての講義及び3次元CAD、型加工の見学
担 当 者	武内 浩一、依田 慎二

(5)

実習生	波佐見町立南小学校2年生（10名）
期 日	平成24年10月10日
実習内容	センターの仕事内容についての質問や測定装置の見学
担 当 者	武内 浩一

(6)

実習生	県立長崎工業高等学校（41名）
期 日	平成24年11月12日
実習内容	県内セラミックス産業についての講義及び透視炉、分析装置などの見学
担 当 者	武内 浩一、阿部 久雄、秋月 俊彦、吉田 英樹、山口 典男、木須 一正

(7)

実習生	九州大学大学院工学府留学生（20名）
期 日	平成24年12月7日
実習内容	長崎県のセラミックス産業と窯業技術センター
担 当 者	武内 浩一、阿部 久雄

(8)

実習生	九州工業大学大学院 生命体工学研究科 (1名)
期 日	平成24年12月10日～12月14日
実習内容	吸着材による排水からのリン回収技術
担当者	高松 宏行

(9)

実習生	県立波佐見高等学校 (159名)
期 日	平成24年12月19日
実習内容	新しい技術の研究や陶磁器産業の現状についての講義及び分析装置などの見学
担当者	山本 信、武内 浩一、阿部 久雄、久田松 学、永石 雅基、桐山 有司 秋月 俊彦、依田 慎二、高松 宏行、吉田 英樹、小林 孝幸、山口 英次

(10)

実習生	時津町立鳴鼓小学校 (55名)
期 日	平成25年2月8日
実習内容	陶磁器製造工程、陶磁器試験方法、新素材開発技術についての講義及び見学
担当者	武内 浩一、桐山 有司、秋月 俊彦、河野 将明、小林 孝幸

(11)

実習生	長崎大学教育学部大学院 (28名)
期 日	平成25年2月19日
実習内容	センターの利用ガイドや分析装置の説明及び見学
担当者	山本 信、武内 浩一、永石 雅基、山口 典男

## VI. 情報提供

### 1. 原稿依頼

刊行物名	内 容	依頼者
「テーブルウェアフェスティバル2013」配布用パンフレット	「長崎無鉛和絵具」に関する解説記事の作成	波佐見焼振興会